

取組実績の概要 【2ページ以内】

本事業では、京都大学の国際戦略理念である「地球規模の視野と多様な地域文化への理解と敬意を根底にすえた教育研究の伝統を活かしつつ、長期的な、創造的国際協働へ展開が期待しうる多様な交流を統合的に推進する」ため、6部局（農学研究科、エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科（東南アジア地域研究専攻）、医学研究科（社会健康医学系専攻）、エネルギー理工学研究所、東南アジア研究所）と国際交流推進機構がASEAN大学連合(AUN) 加盟30大学+1大学と協働で、「人間の安全保障」開発を先導して実践する人材育成を目指した協働教育を構築・実施した。本学は日本で唯一、AUNと包括的学術交流協定を締結しており、その強みを活かして、多くのパートナー大学と共にコンソーシアムを形成し、重層的な協働教育プログラムを構築した。なお、国際交流推進機構は平成28年度に発展的に解消し、学内の複数の組織がその役割を引き継いでいる。

【事業実施体制の構築】

平成24、25年度に本事業の協働教育プログラムの実施体制を構築した。平成24年12月、本学学際融合教育研究推進センターの下に人間の安全保障開発連携教育ユニット（以下、人間の安全保障ユニット）を設置し、学内においては本事業参加部局と国際交流推進機構、学外においてはAUN加盟大学とAUN事務局との連携体制を構築した。平成25年1月には本事業のキックオフミーティングを開催し、AUN主幹5大学とAUN事務局による実施協力の同意書への署名を行った。同年7月には本学、AUN主幹5大学、AUN事務局の代表者によるKU-AUN運営会議を発足させ、毎年1回運営会議を開催し、進捗状況の報告、課題の共有と解決策の議論、参加学生の承認等を行った。AUN非加盟ではあるが、カセサート大学（タイ）から強い要請があり、同大学は農学分野の教育・研究に実績があるため、KU-AUN運営会議の承認を経て、本事業の枠組みで交流を開始した。

【協働教育プログラムの構築】

KU-AUN運営会議は、構想調書の計画に従って、「人間の安全保障」開発を先導して実践する人材育成を目指し、かつ各大学のニーズに合わせて、以下のような協働教育プログラムを構築した。

(1) **学部学生対象サマー／ウィンタースクール**：フィールドワークを通じて実践的な課題発見能力を修得させると同時に、本事業のダブルディグリープログラム参加への動機付けを目指した、学部学生対象のサマー／ウィンタースクールをASEAN域内（派遣）および日本国内（受入）で実施した。平成24～28年度に日本人学生125名をASEANへ派遣、ASEAN学生139名を受け入れた。派遣プログラムは卒業単位に参入できる正式科目である国際交流科目として2科目を付与し、受入プログラムは本学の2単位相当として修了証を発行した。

(2) **修士課程ダブルディグリー**：AUN主幹大学のうちガジャマダ大学（UGM、インドネシア）、バンドン工科大学（ITB、インドネシア）、チュラロンコン大学（CU、タイ）、マラヤ大学（UM、マレーシア）の4大学およびカセサート大学と協働で、「食糧と水」「エネルギーと環境」「パブリックヘルス」の3分野でダブルディグリープログラムを構築した。

①3年課程ダブルディグリー：「食糧と水」「エネルギーと環境」の2分野で、本学の2年課程と相手側大学の2年課程を併せて3年間で修了するダブルディグリープログラムを構築した。平成25年4月に京都大学教育制度委員会による3年課程ダブルディグリーの承認を得て、同年6～9月にUGM、ITB、CU、UMの4大学と、平成26年3月にカセサートとダブルディグリー実施協定書を締結した。それに伴い、農学研究科とUGM、カセサート、ITB、エネルギー科学研究科とUM、CUの間でダブルディグリーを開始した。平成25～28年度に8名の日本人学生と14名のASEAN学生が参加し、うち3名の日本人学生と4名のASEAN学生にダブルディグリーを認定した。

②2年課程ダブルディグリー：「パブリックヘルス」の分野で、本学の2年課程と相手側大学の1年課程を併せて2年間で修了するダブルディグリープログラムを構築した。平成25年7月に本学教育制度委員会による2年課程ダブルディグリーの承認を得て、平成26年3月にUM医学部、CU公衆衛生学部とプログラム・ディスクリプションを締結し、平成26年度からダブルディグリーを開始した。また、ダブルディグリー実施に先立ち、医学研究科社会健康医学系専攻は10月入学制度を導入した。平成26～28年度に1名の日本人学生と6名のASEAN学生が参加し、うち1名の日本人学生と1名のASEAN学生にダブルディグリーを認定した。

(3) **共同指導型シングルディグリー**：AUN加盟大学の修士学生を対象としたプログラムで、2年間の修士課程のうち3～6か月間、本学の指導教員の指導の下で研究を行うものである。学位は学生が所属するAUN加盟大学から授与される。本学と相手側大学の指導教員が同意しラーニングアグリーメントに記載すれば、本学の指導教員が相手側大学における学生の学位論文審査に加わることができる体制を構築した。平成26年度に主幹5大学を除くAUN加盟25大学を対象に同プログラムを開始し、平成27年度には主幹5大学にも拡大した。平成26～28年度、農学研究科、エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科にて合計11名を受け入れた。

【質の保証】

本事業の交流プログラムでは、(1) 単位互換制度、(2) 本学で提供する科目群、(3) 学生の選抜基準、(4) ダブルディグリーの修了要件の質保証のため、以下の施策を実施した。

(1) 単位互換制度：ダブルディグリーを開始した大学と、1単位当たりワークロードの基準とKUCTS（京都大学単位互換基準）の比較資料等、

単位互換に関する資料を作成して、本学の全学的方針に従った単位の実質化をクリアし、単位互換可能な講義の質と量を保証する体制を構築した。また、本事業の実施に伴って新たに開講された共通科目を日本で初めてAUN-ACTSに登録し、単位相互認定や成績管理を可能とする取組を開始した。

(2) 本学で提供する科目群：本事業において本学で英語によって開講される講義群と本事業の実施に伴って新たに開講された共通科目は、本学高等教育研究開発推進センターが全学的に実施しているシラバスの作成、単位認定、成績管理のプロセスに則り、質の保証を確保している。

(3) 学生の選抜基準：本プログラムの学生派遣・受入は、2年課程ダブルディグリーでは3名/年ずつ、3年課程ダブルディグリーでは15名/年ずつ、シングルディグリーではAUNから5名/年を定員とし、学部で成績（GPA2.30以上）、原則としてTOEFL iBT80またはIELTS6.0以上という選抜基準を設定している。

(4) ダブルディグリーの修了要件：(1)の制度を利用して、各大学が設定している互換可能単位数の範囲内で最大限、単位互換を行う。本学、ASEANの大学で履修する科目と単位数、単位互換する科目と単位数について、事前に双方の大学の指導教員が協議してラーニングアグリーメントを作成する。アカデミックカレンダーの相違を勘案した履修スケジュールを作成し、2年課程では本学とASEANの大学で1年ずつ、3年課程ではホーム大学で2年、ホスト大学で1年、研究活動を行い、両大学の学位認定を以てダブルディグリーを認定する。

【国際シンポジウムの開催】

平成26年度より毎年度、本事業に関するシンポジウムをASEANにて開催し、プログラムの内容や研究科・研究室の照会、研究交流を行うことを通して、本学とAUN加盟大学との学術交流を深めると同時に、学生に本プログラムに参加する動機付けを行った。具体的には、平成26年6月にITBにて、本学、ITB、UGMの代表者により国際シンポジウム、平成27年11月にUMにて、本学、UM、USM、URMの代表者による国際シンポジウム、平成29年1月に本学にて、本学、AUN主幹5大学、AUN事務局の代表者による国際シンポジウムを開催した。UMおよび本学でのシンポジウムでは、ダブルディグリーの参加学生が研究成果と留学経験について英語で発表を行った。ITBでの国際シンポジウムを通して、本学農学研究科とITBの研究教育内容に関する相互理解が進み、その結果、平成28年11月にダブルディグリー実施のためのプログラム・ディスクリプションを締結し、ダブルディグリーを開始するに至った。また、医学研究科社会健康医学系は平成27年度より毎年度、公衆衛生分野の国際会議を開催し、国内外の研究者との情報共有を促進するとともに本事業の周知を図った。農学研究科とカセサート大学も平成27年度より毎年度、研究教育内容に関する相互理解の促進を目的とする国際シンポジウムを開催することを決定し、平成27年12月にバンコクで第1回、平成28年12月に本学で第2回国際シンポジウムを開催した。

【国内外への情報提供】

本事業では、日本人学生とASEAN学生への情報提供、国内外の大学への情報提供や情報共有を目的として、以下の施策を実施した。

(1) ウェブサイトの開設とパンフレットの配布：プログラムの目的と内容、留学方法、履修スケジュールやシラバス、募集要項等の情報を、人間の安全保障ユニットのウェブサイトに日英両言語にて掲載している。また、ウェブサイトの情報をまとめる形で日英両言語のパンフレットを作成し、学生に適宜配布している。

(2) 学内での周知活動：学部学生対象サマースクールでは国際交流科目説明会を実施、修士学生に対しては、大学院入試の合格通知発送時に本事業の案内を同封、入学時ガイダンスで説明会を行う他、ポスター掲示、電子メールでの案内等を実施している。

(3) 国外での周知活動：バンコクにある本学ASEAN拠点を活用して、本事業の取組や成果、学生募集情等を広範に発信している。また、人間の安全保障ユニットの教員がASEANでの留学フェア等に赴き、本プログラムの説明を実施している。

(4) 国内大学への情報提供：大学の世界展開力強化事業シンポジウムや採択大学連絡会において、本事業の概要、課題と解決策について講演や報告を行い、情報の共有を図った。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※	15人	15人	30人	30人	46人	57人	54人	65人	59人	65人	204人	232人
実績	30人	0人	18人	49人	31人	43人	36人	47人	29人	50人	144人	189人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】**【学術交流協定、学生交流協定の締結】**

AUN加盟大学と学術交流協定および学生交流協定を以下の通り締結し、京都大学の国際化に貢献した。

- (1) 大学間のダブルディグリー実施協定をガジャマダ大学 (UGM、インドネシア)、バンドン工科大学 (ITB、インドネシア)、マラヤ大学 (UM、マレーシア)、チュラロンコン大学 (CU、タイ)、カセサート大学 (タイ) と締結した。
- (2) 部局間協定であるダブルディグリーのプログラム・ディスクリプションを、農学研究科がUGM、ITB、カセサートと、エネルギー科学研究科がUM、CUと、医学研究科社会健康医学系専攻がUM、CUと締結した。
- (3) ダブルディグリーを実施しないAUN加盟大学のうち、チェンマイ大学 (タイ)、プルネイ・ダルサラーム大学、南洋理工大学 (シンガポール)、フィリピン大学と大学間の学術交流協定を、本学農学研究科がカントー大学 (ベトナム) と部局間学生交流協定を締結した。

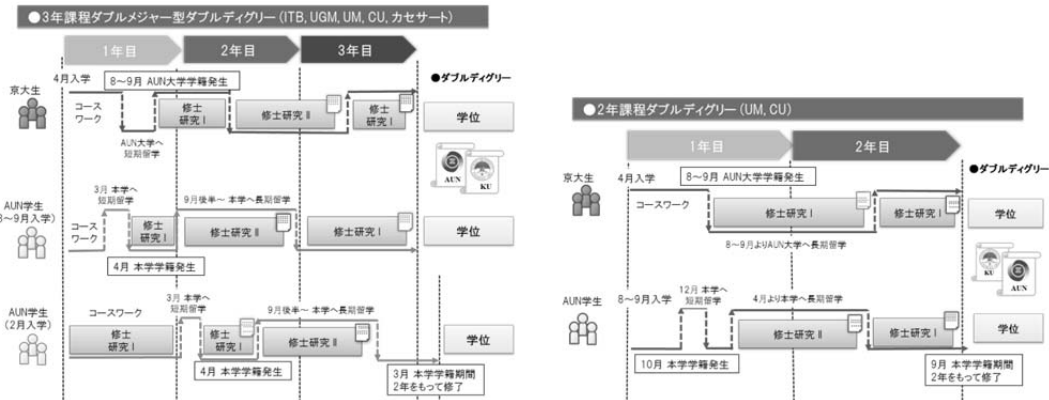
【AUN加盟30大学の学部学生を対象にした短期受入プログラムの実施】

平成25年度より毎年度、AUN加盟大学の学部学生を対象にしたウィンタースクールを実施し、応募者の中から選抜された12～28名/年をエネルギー科学研究科にて受け入れた。募集要項の配布、応募書類の受付、学生の選考をAUN事務局を通して行うことで、作業効率化と情報共有を図った。プログラムに関する情報を人間の安全保障ユニットと本学ASEAN拠点のウェブサイトやフェイスブックにて発信し、また参加学生によるソーシャルネットワーキングサービスを通じた情報発信を通して本プログラムが周知され、毎年多数の学生が応募するに至った。

平成28年度には初めてAUN-ACTSを活用してプログラムを実施した。学生募集、選考、成績通知をAUN-ACTSオンラインシステム上で行った。103名のASEAN学生が各大学からノミネートされ、その中から28名を選抜して本学に受け入れた。AUNの各加盟大学はAUN-ACTSに科目を登録しているが、本学が実施したウィンタースクールは、AUN-ACTSを活用したプログラムの中でもとりわけ交流人数が多く、質と量ともにAUN-ACTS事務局から高い評価を得た。

【修士課程ダブルディグリーの履修スケジュール】

本学とAUN加盟大学とのダブルディグリープログラムを実施するため、1年次に英語研修やラーニングアグリーメント作成のための短期留学および共通科目の受講、2年次または3年次に修士研究実施のための長期留学を、学生の効率的な履修が可能ないように設定した。アカデミックカレンダーの相違を吸収するため、本学における秋季入学制度を活用し、下図のような履修スケジュールを設定した。

**【単位や学位取得を伴う交流実績】**

- (1) 学部学生：本学学生の派遣は、卒業単位に参入できる正式科目である国際交流科目として実施し、2単位を付与する。受入は本学の2単位相当のプログラムとして、修了証を発行する。平成24～28年度、ASEANへ125名の本学学生を派遣し、139名のASEAN学生を受け入れた。
- (2) 修士学生：3年課程および2年課程ダブルディグリーは単位互換制度を最大限活用し、本学とASEANの大学で2つの修士学位を取得する。平成25～28年度、本学学生9名、ASEANの学生20名が参加し、そのうち本学学生4名、ASEANの学生5名がダブルディグリーを修了した。共同指導型シングルディグリーは、AUN加盟大学の学生が2年間のうち3～6か月間、本学指導教員の下で研究を行い、ホーム大学の修士学位を取得するプログラムであるが、平成25～28年度に11名のASEAN学生が参加し学位を取得した。

【質の保証を伴った単位互換】

ダブルディグリーを開始した大学と、1単位当たりワークロードの基準とKUCTS (京都大学単位互換基準) の比較資料等、単位互換に関する資料を作成して、本学の全学的方針に従った単位の実質化をクリアし、単位互換可能な講義の質と量を保証する体制を構築した。また、本事業の実施に伴って新たに開講された共通科目を日本で初めてAUN-ACTSに登録し、単位相互認定や成績管理を可能とする取組を開始した。